

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ  
R.シュトラウス

## サロメ

Salome

2023年5月27日(土)~6月4日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 2023年3月12日(日)前売開始

全国公演:札幌文化芸術劇場 hitaru 6月11日(日)・13日(火)



『サロメ』2016年公演より

**妖艶に舞ったサロメが求めたものは……R.シュトラウスの衝撃作！**

オスカー・ワイルドの耽美的、退廃的な戯曲を、リヒャルト・シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化し、大反響を呼んだスキャンダラスな傑作。約1時間40分の舞台に、豊麗で甘美な旋律と大胆な不協和音が凝縮されており、緊張感溢れる濃密なドラマに息をつく暇もありません。クライマックスの「7つのヴェールの踊り」は、サロメが身にまとったヴェールを剥ぎ取りながら妖艶な踊りを披露する、官能美と緊迫感に満ちた見せ場です。

シュトラウスで特に評価の高いトリックスの指揮、高い表現力で注目を集めるアレックス・ペンダのタイトルロール、ヘロデ役はヘルデンテノールのイアン・ストーレイ、ヘロディアスには『イエヌーフア』コステルニチカで大評判となったジェニファー・ラーモア、ヨハナーンにはワーグナーやロシア作品をレパートリーに著名劇場で大活躍するトマス・トマソンが出演。舞台中央に巨大な古井戸を据えた、妖しくも美しいエファードイング演出で『サロメ』の魅力をお伝えします。

&lt;資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ&gt;

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi\_y2525@nntt.jac.go.jp

## 妖艶に舞った少女サロメが求めたものは…官能と倒錯の衝撃作！

新約聖書の挿話をもとに、世紀末文学を代表する作家オスカー・ワイルドの代表作にして、耽美的、頹廢的な戯曲を、世紀転換期に君臨した作曲家リヒャルト・シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化したスキャンダラスな傑作『サロメ』。その背徳的な内容と衝撃に、ウィーンでは上演禁止の措置が取られるなどヨーロッパ中のセンセーションとなりました。全1幕の舞台に豊麗で甘美な旋律と大胆な不協和音が凝縮され、緊張感に満ちた濃密なドラマには息をつく暇もないほど。クライマックスの「7つのヴェールの踊り」は、サロメが身にまとったヴェールを1枚1枚剥ぎ取りながら妖艶な踊りを披露する、官能美と緊迫感に満ちた見せ場です。新国立劇場の『サロメ』は故アウグスト・エファージング演出、ミュンヘンのバイエルン州立歌劇場で上演されてきた名舞台で、舞台中央に巨大な古井戸を据えた、迫力と妖しさ漂う秀作です。音楽の力をストレートに伝える舞台は、オペラファンに留まらず、オーケストラファンの皆様にもお勧めです。



## 抜きんでた表現力のペンダ、トマソン、ストーレイら世界の実力派が勢揃い

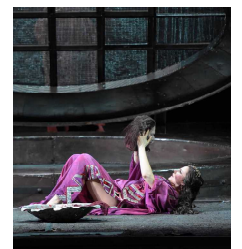
注目のサロメには、バロックからヴェルディ、ヴェリズモ・オペラで活躍、抜きんでた表現力で世界中の観客を圧倒しているアレックス・ペンダ（アレクサンドリーナ・ペンダチャンスカ）。ヨハナーンはワーグナーやロシア作品をレパートリーに著名劇場で大活躍するトマス・トマソン、サロメの義父ヘロデはヘルデンテノールのベテラン、イアン・ストーレイ。ヘロディアスは新国立劇場『イェヌーフ』コステルニチカで大評判となったジェニファー・ラーモアと、世界の実力派が揃う、期待の顔ぶれです。サロメに恋するナラポートを演じる鈴木准、ヘロディアスの小姓役の加納悦子ら、国内からもオペラファンを魅了する実力派が勢揃いします。指揮はリヒャルト・シュトラウスを得意とするコンスタンティン・トリックスが当たります。

### <「サロメ」あらすじ>



紀元30年頃。不気味な月が昇る晩に、領主ヘロデの宮殿で宴が催されている。ヘロデの義理の娘サロメは、ヘロデのいやらしい視線と宴の退屈さに嫌気がさし、外に出てくる。サロメに恋焦がれる衛兵隊長ナラポートは、今夜は彼女が一段と輝いて見えると称えるが、小姓は不吉な予感がしてたまらない。すると庭の古井戸から「救世主が現れる日がついに来た」と語る声が。それは預言者ヨハナーンの声だった。彼は、サロメの母ヘロディアスを糾弾したために古井戸に幽閉されているが、ヘロデからも恐れられている。興味を持ったサロメは、ヨハナーンを連れてくるようナラポートに命じる。古井戸から出てきたヨハナーンは、穢れたヘロディアスの罪を激しく非難するが、サロメはすっかり魅せられてしまう。サロメはヨハナーンにキスを求めるが、彼は拒否。その光景に耐えられずナラポートが自殺してしまうほど、サロメは何度もキスを求めるものの、ヨハナーンは「呪われよ」との言葉を吐いて、古井戸に戻る。ヘロデはサロメを宴の席に呼び戻し、酒を一緒に飲もう、横に座れ、と誘うが、サロメは断る。ヨハナーンは「ついにその日が来た」と不気味に語り、ユダヤ人たちは神や預

言者についての論争を繰り広げる。ヘロデはおもむろにサロメに踊りを求める。嫌がるサロメだが「望みのものを何なりと褒美にやる」と言われ、妖艶な踊りを披露する。踊り終えてサロメが要求したものは、ヨハナーン的首であった。恐れおののくヘロデがどんなに諭してもサロメが要求を変えないため、ヘロデはその望みを受け入れる。銀の盆に載って運ばれるヨハナーン的首。受け取ったサロメは、ヨハナーンに口づけして恍惚とする。あまりのおぞましさに、ヘロデは兵士たちにサロメ殺害を命じるのだった。

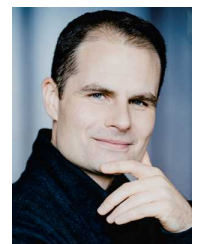


### <主要キャスト・スタッフプロフィール>

#### 【指揮】コンスタンティン・トリックス

#### Constantin TRINKS

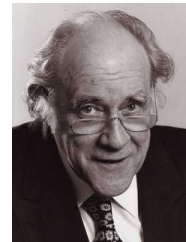
カールスルーエ出身。2002年からザールラント州立歌劇場カペルマイスター、06年～09年は音楽監督代理を務める。09年～12年ダルムシュタット歌劇場音楽監督。同劇場『ニーベルングの指環』で高評価を得る。ワーグナー指揮者として知られ、ワーグナー生誕200年の2013年はザクセン州立歌劇場『さまよえるオランダ人』、新国立劇場とストラスブール、ベルリン・ドイツ・オペラ、フランクフルトで『タンホイザー』、バイロイト音楽祭、ストラスブール・ラン歌劇場『恋愛禁制』を指揮した。近年ではブラハ国立歌劇場『ローエングリン』、ハノーファー歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、22年バイロイト音楽祭ガラコンサートに登場。ほかに、ハノーファー歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、スウェーデン王立歌劇場『ワルキューレ』、ケルン歌劇場『ラ・ボエーム』『ルサルカ』、シアトル・オペラ、チューリヒ歌劇場『ねじの回転』、ザクセン州立歌劇場『さまよえるオランダ人』、ストラスブール・ラン歌劇場『サロメ』、パリ・オペラ座『魔笛』などを指揮。バイエルン州立歌劇場に定期的に登場、『パルジファル』『ホフマン物語』『後宮からの逃走』『コジ・ファン・トゥッテ』『アラベツラ』を指揮している。今シーズンは英国ロイヤルオペラ『ドン・ジョヴァンニ』、ナポリ・サンカルロ歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、ライブツィヒ歌劇場『ローエングリン』、モンペリエ歌劇場『魔笛』、ソフィア国立歌劇場『スベードの女王』などに登場予定。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』、12年『ラ・ボエーム』、13年『タンホイザー』、17年『フィガロの結婚』を指揮した。





**【演出】アウグスト・エファージング****August EVERDING**

1928年ドイツのヴェストファーレン州ポットロップに生まれる。ボン大学およびミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、演劇学を修める。ミュンヘン・カンマーシュピールで演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。63年に同劇場のインテンドント、73年にハンブルク州立歌劇場、77年にバイエルン州立歌劇場の総監督となり、82年にはバイエルン州の全州立劇場の総監督に就任、93年にバイエルン州テアターアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンにて逝去。生前は、ドイツ劇場連盟をはじめとする芸術文化関係団体の要職を歴任するかたわら、演出家としても積極的に活躍した。

**【サロメ】アレックス・ペンダ(ソプラノ)****Alex PENDA**

ソフィア生まれ。ビルバオ・オペラ『ルチア』でデビューし国際的に躍り出た。ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルギー王立モネ劇場、ボリショイ劇場など世界一流の歌劇場に出演し、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『カルメン』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラとドンナ・アンナ、『サロメ』タイトルロール、『エレクトラ』クリソテミス、『パルジファル』クンドリー、『仮面舞踏会』アメリア、『マクベス』マクベス夫人、『フィデリオ』レオノーレなど、バロック、古典からベルカント、ヴェルディ、ワーグナーやシュトラウスまでレパートリーとする。近年の主な出演に、サンタフェ・オペラ、ポーランド国立歌劇場『サロメ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『道化師』ネッダ、エクサンプロヴァンス音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、アン・デア・ウィーン劇場、モネ劇場『イドメネオ』エレクトラ、東京交響楽団『パルジファル』クンドリー、バーデン・バーデン歌劇場『メフィストフェレ』マルゲリータ、アヴィニオン歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ソフィア歌劇場『トスカ』タイトルロール、モネ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァなどがある。東京交響楽団『パルジファル』クンドリーで来日している。新国立劇場初登場。

**【ヘロデ】イアン・ストーレイ(テノール)****Ian STOREY**

イギリス生まれ。グラフィックデザインを学んだ後、声楽を学ぶ。1991年に『ルクレツィアの凌辱』『ラ・ボエーム』『アイーダ』でデビュー。スコティッシュ・オペラ『マクロプロス事件』『トスカ』『イル・トロヴァトーレ』『カーチャ・カバノヴァ』、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『トスカ』『カルメン』『トゥーランドット』などに出演。イタリアにはトッレ・デル・ラーゴ・ブッチーニ音楽祭『トゥーランドット』カラフでデビューし、ナポリ・サンカルロ歌劇場『マクロプロス事件』『イエヌーファ』、ポローニャ歌劇場『スペードの女王』、パレルモ・マッシモ劇場『ルル』、フェニーチェ歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』、ヴェローナ歌劇場『トゥーランドット』などに出演。英国ロイヤルオペラには『トゥーランドット』カラフでデビュー。『トリスタンとイゾルデ』はミラノ・スカラ座、チューリヒ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、フェニーチェ歌劇場など特に数多く出演している。最近ではベルリン州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場『神々の黄昏』ジークフリート、サンフランシスコ・オペラ『さまよえるオランダ人』エリック、ポローニャ歌劇場『ピーター・グライズ』タイトルロール、『サロメ』ヘロデ、サンカルロ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイなどに出演。新国立劇場初登場。

**【ヘロディアス】ジェニファー・ラーモア(メゾソプラノ)****Jennifer LARMORE**

アメリカ出身。1986年にニース歌劇場で『皇帝ティートの慈悲』セストでデビュー。以来、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ジュネーヴ大劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラなど世界各地で活躍。最近の出演には、英国ロイヤルオペラ、マドリード・テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、オランダ国立オペラ『ルル』ゲシュヴィッツ伯爵令嬢、ベルリン・ドイツ・オペラ『イエヌーファ』コステルニチカ、ジュネーヴ大劇場及びポローニャ歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ジュネーヴ大劇場『メデア』タイトルロール、ハンブルク州立歌劇場『美しきエレース』タイトルロール、ジュネーヴ大劇場『ヴォツェック』マリー、アン・デア・ウィーン劇場『ポッペアの戴冠』オッターヴィア、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラなどがある。02年フランス芸術文化勲章受章。08年『ヘンゼルとグレーテル』がグラミー賞ベストレコーディング賞受賞。新国立劇場では2015/16シーズン『イエヌーファ』コステルニチカに出演。

**【ヨハナーン】トマス・トマソン(バス・バリトン)****Tómas TÓMASSON**

レイキャビク音楽学校で学び、アイスランド・オペラでモーツァルト、ヴェルディの役に出演。英国王立音楽院卒業直後に国際的活動を始め、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、マドリード・テアトロ・レアル、ベルリン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ベルギー王立モネ劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ロサンゼルス・オペラなど世界の著名歌劇場に出演する。最近では、バーリ・ペトルツェツリ歌劇場『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『ニーベルングの指環』ヴォータン、ジュネーヴ大劇場『ニーベルングの指環』ヴォータン/さすらいの人、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、『スペードの女王』トムスキー伯爵、ハンガリー国立歌劇場『パルジファル』カルイングゾル、パレルモ・マッシモ劇場『パルジファル』アムフォルタス、チューリヒ歌劇場『マクロプロス事件』コレナティー博士、ワシントン・オペラ『サムソンとデリラ』アビメレク、パリ・オペラ座、アイルランド国立オペラ『エレクトラ』オレスト、アイルランド国立オペラ『トスカ』スカルピアに出演している。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ  
リヒャルト・シュトラウス  
**サロメ**  
Salome / Richard Strauss  
全1幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

【公演日程】2023年5月27日(土)14:00/30日(火)14:00/2023年6月1日(木)19:00/4日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:22,000円・A:16,500円・B:11,000円・C:6,600円・D:3,300円・Z:1,650円

【前売開始】2023年3月12日(日) ※予定上演時間 1時間40分

指揮	コンスタンティン・トリンクス	サロメ	アレックス・ペンダ
Conductor	Constantin TRINKS	Salome	Alex PENDA
演出	アウグスト・エファーディング	ヘロデ	イアン・ストーレイ
Production	August EVERDING	Herodes	Ian STOREY
美術・衣裳	ヨルク・ツィンマーマン	ヘロディアス	ジェニファー・ラーモア
Set and Costume Design	Jörg ZIMMERMANN	Herodias	Jennifer LARMORE
振付	石井清子	ヨハナーン	トマス・トマソン
Choreographer	ISHII Kiyoko	Johanaan	Tómas TÓMASSON
再演演出	三浦安浩	ナラボート	鈴木 准
Revival Director	MIURA Yasuhiro	Naraboth	SUZUKI Jun
舞台監督	伊藤 潤	ヘロディアスの小姓	加納悦子
Stage Manager	ITO Jun	Ein Page der Herodias	KANOH Etsuko
		5人のユダヤ人1	与儀 巧
		5 Juden 1	YOGI Takumi
		5人のユダヤ人2	青地英幸
		5 Juden 2	AOCHI Hideyuki
		5人のユダヤ人3	加茂下 稔
		5 Juden 3	KAMOSHITA Minoru
		5人のユダヤ人4	糸賀修平
		5 Juden 4	ITOGA Shuhei
		5人のユダヤ人5	畠山 茂
		5 Juden 5	HATAKEYAMA Shigeru
		2人のナザレ人1	北川辰彦
		2 Nazarener 1	KITAGAWA Tatsuhiko
		2人のナザレ人2	秋谷直之
		2 Nazarener 2	AKITANI Naoyuki
		2人の兵士1	金子慧一
		2 Soldaten 1	KANEKO Keiichi
		2人の兵士2	大塚博章
		2 Soldaten 2	OTSUKA Hiroaki
		カッパドキア人	大久保光哉
		Ein Cappadocier	OKUBO Mitsuya
		奴隷	花房英里子
		Ein Sklave	HANAFUSA Eriko

管弦楽 ..... 東京フィルハーモニー交響楽団  
Orchestra ..... Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 ..... 大野和士  
Artistic Director ..... ONO Kazushi

全国公演: 札幌文化芸術劇場 hitaru

2023年6月11日(日)14:00・13日(火)19:00

札幌公演はヨハナーン役に青山貴、管弦楽には札幌交響楽団が出演します。

<https://www.sapporo-community-plaza.jp/event.php?num=2916>

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/Salome/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

\* Z席 1,650円: 公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

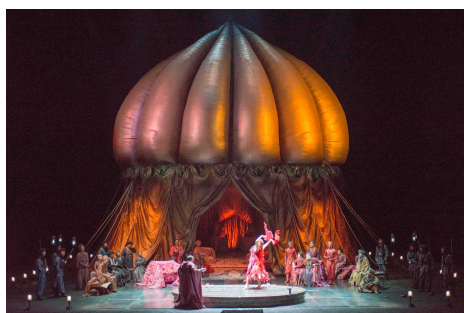
\* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。\* 未就学児入場不可。

\* 新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

\* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い

[https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23\\_017576.html](https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html)

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



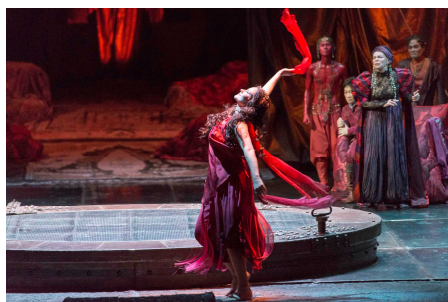
【2】



【3】



【4】



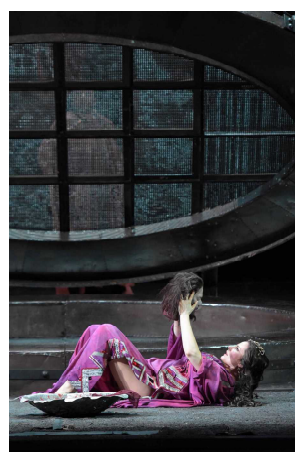
【5】



【6】



【7】



【8】

新国立劇場『サロメ』2016年公演より 撮影:寺司正彦